

平成23年度 シラバス	学年・期間・区分	5学年・後期・必修	
	対象学科・専攻	土木工学科	
景観設計 (Landscape Design)	担当教員	岡松 道雄 (Okamatu, Michio) 毛利 洋子 (Mouri, Yoko)	
	教員室	都市環境デザイン工学科棟3階 (Tel. 42-9122)	
	E-Mail	okamatsu@kagoshima-ct.ac.jp	
教育形態 / 単位の種別 / 単位数	講義・演習・PBL / 履修単位 / 2単位		
週あたりの学習時間と回数	授業 (200分) × 15回		
<p>[本科目の目標] 土木工学における景観デザインの位置づけ・必要性を学び、土木構造物や土木空間の利用者である市民が、どの様に体験し、味わうのか、普遍的な枠組みについて理解を深める。さらに、風景の中で設計者が操作可能なものを把握し、模型製作などを通じて、デザインの実践的な演習を行うこと目標とする</p>			
<p>[本科目の位置付け] 本科目では、いままで学んできた土木工学の各分野を、景観デザインという新しい視点から統合し、実践する。そのため、土木工学全般への深い理解が必要であり、さらに、デザインに関連する隣接分野 (建築やインテリア、グラフィックなど) へも関心を寄せておく必要がある。本科目はPBL形式の学習法で進めていく。</p>			
<p>[学習上の留意点] 教科書や講義の内容を為呑みにせず、必ず自分の目と足で実体験を通じて確認すること。デザイン教育は、教室で完結するものではないので、普段の生活から意識的・批判的に景観や構造物を眺め、自分なりのアイデアを練っておくこと</p>			
[授業の内容]			
授 業 項 目	時限数	授業項目に対する達成目標	予習の内容
1. 景観工学の基礎	6	景観デザインの位置づけ、景観とは何か？ 景観把握モデル、視点と視点場が説明できる 人間の視覚特性が説明できる 空間のスケール・ヒューマンスケールが説明できる プロポーションとコンポジションが説明できる ゲシュタルト心理学 (図と地) が説明できる	教科書p31までを読み理解しておくこと。
2. 景観のイメージ	10	都市のイメージが説明できる Prospect-Refuge理論、親水象徴理論が説明できる デザインプロセスが説明できる	教科書p32～121までを読み理解しておくこと
3. デザイン事例	8	河川デザインの事例が説明できる 橋梁デザインの事例が説明できる	教科書p124～233までを読み理解しておくこと
4. 設計演習	36	現地調査の方法が説明できる コンセプトの立案が説明できる 設計の進め方、模型の作り方が説明できる プレゼンテーション、評価	補助教材を読み、概要を理解しておくこと
---後期期末試験---		後期末試験は行わない	

